

## NANIWA 126号

### とあるローカル線での会話

1両でコトコト走る車両内、ご年輩の3人ぐみ

「トーカイはきついぞ。継続などの業務を自分たちにあわせてくださいって平気で言いよる。自分勝手な理屈だぞ。おまけに未継続契約はどうなりましたかとしつこく電話してきよる。」「そうか、やりすぎは本当にいかん。自分たちのことだけでいいよるに」

真実とは、杓子定規にかまえた会議や儀礼的な対話からは伝わりません。こうしたたわいない話しが、事実や実情を物語っていることが多いものです。たまたま乗り合わせたローカル線で、自社にまつわるこんな話を聞くにつけ、東海日動が、自分たちは正しいと思ってやっていることがいかに世間では「おかしい」と思われていることに早く気づいて欲しいと思います。足を踏まれている人が、「痛い」と声をあげるまで気付かないのでは困ります。踏んだときには「ごめんなさい」の一言ですむことは多々ありますし、場が和むのです。

途中下車して、またビラを配布していかなければいけない駅が増えました。

西日本ブロックより、「来年もよろしくお願ひ致します」。

緊急連絡網はメールで配信済みです。運動のとりにくみをいっそう進めよう。

ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために  
けんかはしない いじめない みんな(^ ^)なかよくしよう  
全損保日動外勤支部大阪分会